

CLIPPEDIMAGE= JP359054825A

PAT-NO: JP359054825A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59054825 A

TITLE: WET MULTIPLATED FRICTIONAL ENGAGEMENT DEVICE

PUBN-DATE: March 29, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SHIBATA, KAZUHIKO

MORIMOTO, MITSUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

AISIN WARNER LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP57165897

APPL-DATE: September 22, 1982

INT-CL (IPC): F16D025/063;F16D013/52 ;F16D065/853
;F16D067/04

US-CL-CURRENT: 192/70.12,192/70.14

ABSTRACT:

PURPOSE: To check a temperature rise in a separator plate as well as to prevent any burnout from occurring, by making lubricating oil for cooling use flowable along the separator even in a state of a disc plate and the separator plate being contacted with each other.

CONSTITUTION: When a hydraulic servomechanism operates, disc plates 16A and 16B as well as separator plates 1A, 1B, 1C and 1D are all pressed down to one another whereby a frictional engagement device 14 becomes heated by friction due to the engagement between a rotating plate and a

stopping plate and a flow of lubricating oil between plates is intercepted in consequence. However, the flow of lubricating oil passing through clearance grooves 11C and 11D and a through hole 15 of these separator plates 1A, 1B, 1C and 1D is secured and thus cooled.

COPYRIGHT: (C)1984, JPO&Japio

⑰ 公開特許公報 (A) 昭59-54825

⑯ Int. Cl.³
F 16 D 25/063
13/52
// F 16 D 65/853
67/04

識別記号

府内整理番号
6524-3 J
6524-3 J
7006-3 J
7006-3 J

⑯ 公開 昭和59年(1984)3月29日
発明の数 2
審査請求 未請求

(全4頁)

⑰ 濡式多板摩擦係合装置

⑰ 特 願 昭57-165897
⑰ 出 願 昭57(1982)9月22日

⑰ 発明者 柴田一彦
安城市藤井町高根10番地アイシン・ワーナー株式会社内

⑰ 発明者 森本恭己
安城市藤井町高根10番地アイシン・ワーナー株式会社内
⑰ 出願人 アイシン・ワーナー株式会社
安城市藤井町高根10番地
⑰ 代理人 弁理士 石黒健二

明細書

1. 発明の名称

濡式多板摩擦係合装置

2. 特許請求の範囲

1) 複数の環状のディスクプレートとそれらの間に配される環状のセパレータプレートとを備える係合要素が、油圧サーボを備えるピストンの前進または後退によって、圧着係合または解放されることにより、2個の要素間の断続がなされ、係合解放作動時の発熱は内側から潤滑油を流して冷却する濡式多板摩擦係合装置において、

ディスクプレートに相対するセパレータプレートに、冷却用潤滑油を係合作動時にも常に通すための半径方向の貫通穴または半径方向に通る溝を設けたことを特徴とする濡式多板摩擦係合装置。

2) 前記半径方向に通る溝は、摩擦材が固定されたディスクプレート接合面と対応しないセパレ

ータプレート面に形成されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の濡式多板摩擦係合装置。

3) セパレータプレートがダブルセパレータであり、セパレータプレートとセパレータプレートの接する方の面上に前記半径方向に通る溝をそれぞれ対応して設けたことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の濡式多板摩擦係合装置。

4) 複数の環状のディスクプレートと、それらの間に配される環状のセパレータプレートと、ディスクプレートおよびセパレータプレートの間に配される摩擦材とを備える係合要素が、油圧サーボを備えるピストンの前進または後退によって、圧着係合されるまたは解放されることにより、2個の要素間の断続がなされ、係合解放作動時の発熱は内側から潤滑油を流して冷却する濡式多板摩擦係合装置において、

前記摩擦材に冷却用潤滑油を係合作動時にも常に通すための半径方向の貫通穴が設けられている

ことを特徴とする温式多板摩擦係合装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、自動変速機のギアトレーンに用いられる温式多板摩擦係合装置に関するものである。

自動変速機のギアトレーンに用いられる従来の温式多板摩擦係合装置は、第2図に示すような複数の内側に小突起201が周設された環状平板のディスクプレート20と、ディスクプレート20の間に配置される第1図に示すような外側に突起101が周設された環状平板のセバレータプレート10とが配列されてなる係合要素が、油圧リードボルを備えるピストンの前進により圧着係合され、ピストンの後退により解放されることにより、ギアトレーンの2個の要素間の断続がなされ、また係合解放作動時の発熱は内側から潤滑油を流して冷却する型式のものであった。

ディスクプレートに固着される摩擦材の焼損は、最も発熱しやすい係合時の温度上昇により発生するものであり、上記既存例の如く、平板状のディ

スプレート20およびセバレータプレート10を用いた場合、最も発熱しやすい係合過渡期すなわちディスクプレート20とセバレータプレート10が接しているとき、内側から外側へディスクプレート20

とセバレータプレート10の隙間を流れている潤滑油の流れが止められ、潤滑油による冷却効果が失われる。

本発明は、摩擦により最も温度が上昇する係合過渡期のディスクプレートとセバレータプレートが接した状態においても冷却用の潤滑油をセバレータプレートに沿って流すことが可能となり、セバレータプレートの温度上昇をおさえて焼損を防止できる温式多板摩擦係合装置の提供を目的とする。

つぎに本発明を図に示す実施例に基づき説明する。

第3図に示されるのは、片面に半径方向に通る溝11が放射状等間隔に設けられ、外周側に突起12が等間隔に周設された環状のセバレータプレー

トであり、第5図に断面図で示される自動変速機ギアトレーン100の中央に位置し、油圧リードボル13によって作動する第1実施例のダブルセバレータ型の温式多板摩擦係合装置14内に採用され、その中央に接して設けられた2つのセバレータプレート1A、1Bとしては両端のピストン24およびバックングプレート25と接するセバレータプレート1C、1Dとして用いられ、セバレータプレート1A、1Bは対面する側の溝11A、11Bによって、貫通穴15を形成しており、1C、1Dは対面するピストン24またはバックングプレートとの間に溝11C、11Dを形成している。

上記実施例においてセバレータプレート1A、1B、1C、1Dの溝11A、11B、11C、11Dは、常に摩擦材26と接合しない側に設けられているが、これは、摩擦材と接合する側に設けると摩擦材26の消耗および剥離の原因となるからである。

第4図に示されるのは、半径方向の貫通穴21が放射状で且つ等間隔に設けられ、外周側に突起22

が等間隔に周設された環板状のセバレータプレート2であり、第5図の自動変速機ギアトレーン100の前記第1実施例のダブルセバレータ型多板摩擦係合装置14の後方(図示右側)に配置された第2実施例の温式多板摩擦係合装置23の3枚のセバレータプレート2A、2B、2Cとして用いられている。

つぎに本発明の温式多板摩擦係合装置の作用を説明する。

上記摩擦係合装置14は解放され、ディスクプレート16A、16Bおよびそれらを支持する一方回転するクラッチのアウターレース17が中間軸18と一体になって回転しているとき、油口19を通じて中心部から供給される潤滑油はディスクプレート16A、16B、セバレータプレート1A、1B、1C、1Dの間隔溝11C、11Dおよび貫通穴15を通じて外側へ流れ、摩擦係合装置14は十分に冷却されている。この状態から油圧リードボル13が働くと、ディスクプレート16A、16Bおよびセバレータプレート1A、

1B、1C、1Dが接着され回転中のプレートと停止中のプレートとの係合摩擦により摩擦係合部14は発熱し、潤滑油のプレート間の隙間の流れは遮断されるが、前記構成C、11Dおよび貫通穴15を通る潤滑油の流れは確保され、冷却される。

冷却のための潤滑油供給油路上記発明の如くセバレータプレート12を形成する以外に第5図に示す如く摩擦材26内に半径方向の貫通穴26Aを形成して行なっても良い。

以上述べた如く本発明の温式多板摩擦係合装置は、ディスクプレートに相対するセバレータプレートまたは摩擦材に、冷却用潤滑油を循環作動時にも常に通すために、半径方向の貫通穴または半径方向に通る溝を開けているので、序盤より最も温度が上昇する係合過渡期のディスクプレートとセバレータプレートが接した状態においても冷却用の潤滑油をセバレータプレートに沿って流すことが可能となり、セバレータプレートの温度上昇をおさえて焼損を防止できる。

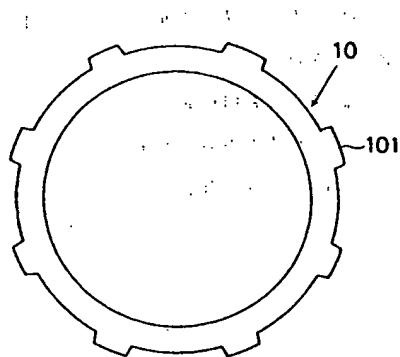
4. 図面の簡単な説明

第1図は、従来型のセバレータプレートの正面図、第2図は、ディスクプレートの正面図、第3図は本発明の温式多板摩擦係合装置の第1実施例に用いられる溝を設けたセバレータプレートの正面図、第4図その第2実施例に用いられる半径方向貫通穴を設けたセバレータプレートの正面図、第5図は、本発明の温式多板摩擦係合装置の第1実施例および第2実施例を接着したキアトレーンの部断面図である。

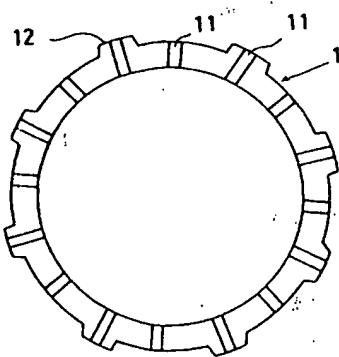
図中 1、1A、1B、1C、1D、2、2A、2B、2C、10…セバレータプレート 10A、10B、20…ディスクプレート 11、11A、11B、11C、11D…半径方向に通る溝 21…半径方向の貫通穴

代理人 石原健

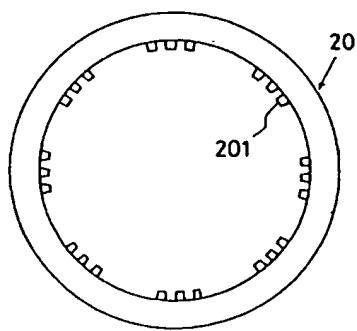
第1図



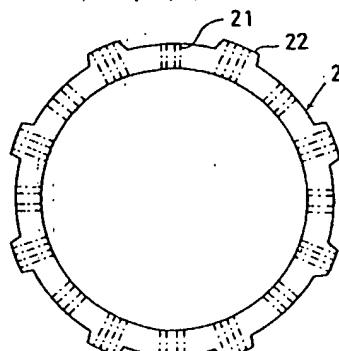
第3図

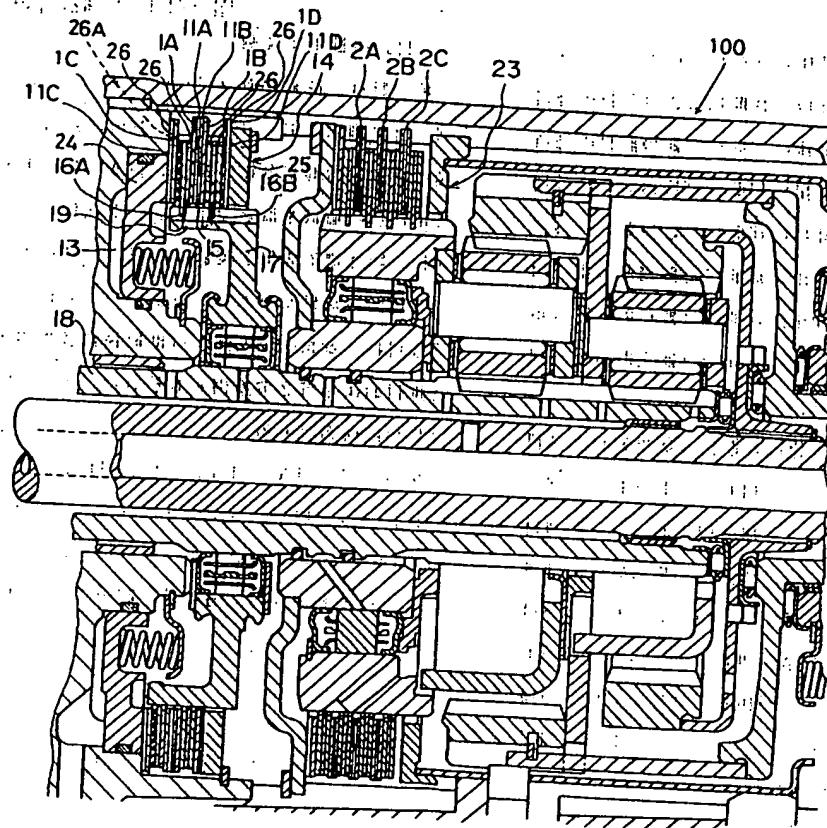


第2図



第4図





手続初正圖

特許庁長官

昭和58年3月5日

1. 事件の表示

昭和57年特許願第165897号

2. 発明の名称

滑式多板摩擦合装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 愛知県安城市藤井町南根10番地

氏 名 ナイシン・ワーナー株式会社

代表者 西 村 勉

4. 代理人 〒465電話 052-773-2449

住 所 名古屋市名東区木郷二丁目 160番地

氏 名 (8004)弁理士 石 黒 健

5. 補正命令の日付

昭和58年2月22日

6. 補正の対象

明細書の特許請求の範囲の欄の見出し

7. 補正の内容

1) 特許請求の範囲の欄

「2. 特許請求の範囲」を

「2. 特許請求の範囲」とする。

